

MEMBERS

TOP TENOR

勝山 慎一郎
神津 郁夫
柴田 治朗
鈴木 章司
★ 榎本 誠司

SECOND TENOR

新井 浩
井上 雅史
子塚 勲
★ 戸川 博樹
吉田 聡

BARITONE

小林 岳史
村井 信吾
村田 哲也
★ 渡辺 克己

BASS

池辺 秀和
石橋 孝一
小野 正史
★ 斎藤 纈
佐藤 真一
早川 由章

梅谷 紀之
前田 洋介

石井 健
小林 知重
山本 享

Program

男声合唱団 グリーンスリーブス 第3回 演奏会



1984, 3, 29, 木 7:00 p.m.

横浜西地区センター西公会堂

ごあいさつ

今日は、お忙しい中、男声合唱団グリーン
スリーブス第3回演奏会にようこそおいで下
さいました。今回は、前回までのサロンコン
サートとは雰囲気もガラリと変わった、公会
堂での演奏会となりました。

大きな会場ということ、団員一同はリキッ
ておりますが、しかしまた、一株の不安はぬ
ぐいきれないといったところで。でも、場
所は変わってもグリーンスリープスの良さは
変わりません。どうぞ最後までごゆっくりお
聴き下さい。

最後になりましたが、この場を借りまして未熟な私たちを御指導下さった柳原 哲先生に深くお礼申し上げます。ありがとうございました。

今後とも、みなさまに愛される男声合唱団
グリーンスリーブスを目指してがんばってい
きますので、どうぞよろしくお願いします。

團長 手塚 勲

PROGRAM

Opening

1st. Stage Mass for three voices

William Bird

Kyrie

指揮 吉田 聡

Gloria

Credo

Sanctus

Benedictus

Agnus Dei

2nd Stage コリサにせります ^{2nd レット} 頻感 尊定 ステージ

— Intermiſſion —

3rd. Stage. クレーの絵本 第2集

〔ポール・フレの絵による「絵本」のために〕より

《黒い王様》 1927

作詩 谷川 俊太郎

《ケトルドラム奏者》 1940

作曲 三善 晃

《黄金の魚》 1923

指揮 吉田 聡

《まじめな顔つき》 1939

《死と炎》 1940

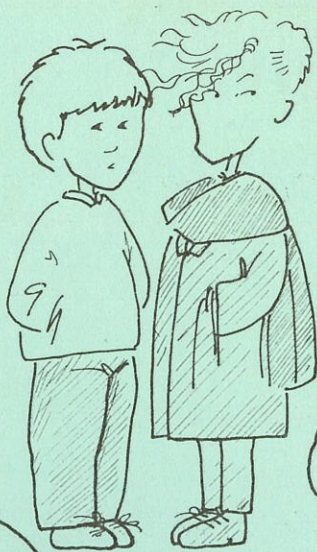
メンバー紹介

G.S. スーパース 場外乱闘編



柴田 治朗

突然見せるゆびさびの世界、人よび民謡サーファー

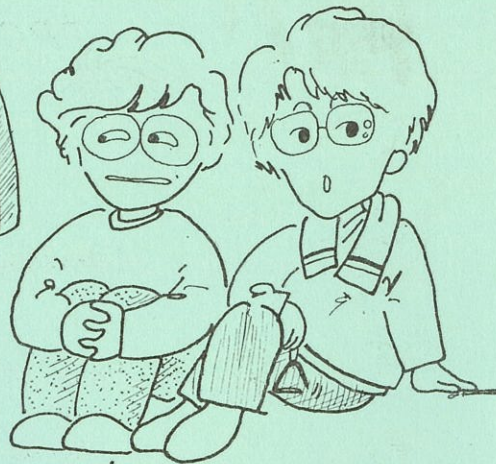


神津 有夫

突然あばれるとの素顔、人よびで隣の男

勝山 博一郎

突然出てくるG.S.のスノビスト
注1 ニューメディア対応



鈴木 章司

突然光輝く幻の高音域、G.S.の超音速川僧

榎木 誠司

突然破綻するとの艶声
G.S.のガラスの声帯



前田 洋介

突然驚く奥利チヨ

雪星の如く現れた助っ人野郎



新村 浩

突然驚くとの編(偏?)曲

人よび、ブーボ・アライ

戸川 博樹

突然驚くとの胃袋、人よび
G.S.の大盛りチャーハン



手塚 勲

突然驚くとの行動

人よびアサデント・テスカ

井上 雅史

突然驚くとの重額

ものごしでゆらか

G.S.の南あひこ

村井 信吾

謎の笑い声との1、人よびベルカント発法
注3

小林 岳史

謎の笑い声との2、G.S.のダッパッパ川僧

渡辺 克己

謎のロリコン、人よびG.S.の

入院川僧

梅谷 紀之

謎のセールスマン

人よびトヨペットの回し者

池辺 秀和

思わす納得、人よびビッグイケベ

早川 由章

思わす驚愕

終電気にするG.S.の小田急線

石橋 孝一

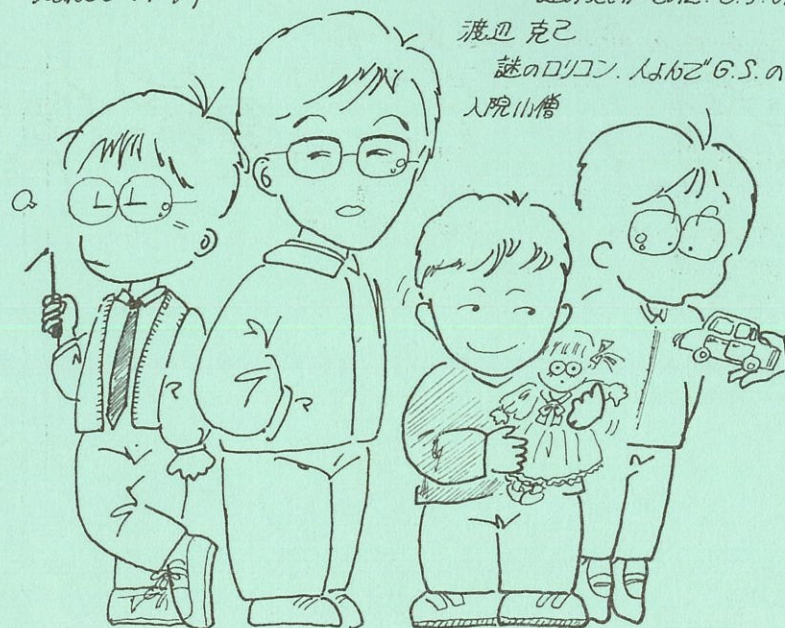
思わす興奮

人よびG.S.の鼻血川僧

村田 哲也

謎の美少年、人よび

G.S.のIvy川僧



小野 正史

思わす脱帽

女にのせさしい

ジェントルマン ONO.



石井 健 Ten.

小林 知重 Bari.

山本 亨 Bass.

注1 スノビスト: スノッ^{注2}な人間

注2 スノッ: 英和辞典で調べば

注3 ベルカント発法: 音楽辞典で調べば

クレーの絵本 第2集 [ポル・クレーの絵による「絵本」のために] より

《 黒い王様 》 1927

おなかをすかせたこどもは

みなかがすいているのでかなしかった

みなかがいっぱいのおうさまは

みなかがいっぱいなのでみなしかった

こどもはかぜのおとをきいた

おうさまはみんなぐをきいた

ふたりともめになみだをうかべて

おなじひとつのほしのうでで

《 ケトルドラム奏者 》 1940

どんなおおきなおとも

しずすさをこねることはいできない

どんなおおきなおとも

しずすさのなかでなりひびく

ことりのさえずりと

ミサイルのばくはつとを

しずすさはともにそのうでにだきとめる

しずすさはとわにそのうでに

《 黄金の魚 》 1923

おおきなさかなはおおきなくちで

ちゅうくらのさかなをたべ

ちゅうくらのさかなは

ちいさなさかなをたべ

ちいさなさかなは

もっとちいさな

さかなをたべ

いのちはいのちをいかにえとして

ひかりかがやく

しめめさはふしめめさをせしないとして

はなみらく

どんなふかいうみにも

ひとつぶのなみだが

とすていないということはない

谷川 俊太郎

《 まじめな顔つき 》 1939

まじめなひとが

まじめにあるいていく

かなしい

まじめなひとが

まじめにないていく

おかしい

まじめなひとが

まじめにあせまる

はらがたつ

まじめなひとが

まじめにひとをこらす

おそろしい

《 死と災 》 1940

かわりにしんでくれるひとはいないのて

わたしはじぶんでしなねばならない

だれのほねでもない

わたしはわたしのほねになる

かなしみ

かわのながれ

ひとびとのおしゃべり

あさつゆにぬれたくものす

そのどれひとつとして

わたしはたすさえてゆくことができない

せめてすきなうただけ

きこえていてはくれぬだろうか

わたしのほねのみみに